

# 家庭教育支援協会

## 会報誌 第7号

### 家庭教育学はなぜ必要なのか

日本家庭教育学会理事長  
筑波大学 人文社会科学部 教授  
佐藤貢悦

個人的な「体験」は身近な人には通じます。年配者が蘊蓄を語る中身など、いたって具体的だからです。しかし、それが社会の叡智となり、誰もが共有できる「経験」となるには抽象化のプロセスが必要です。どこの誰にでも理解できる教訓となるかどうか重要です。たとえば、毛利元就(1497～1571)の「三本の矢」、上杉鷹山(1751～1822)の「蒙養訓」など、一部の間では読まれ続けています。そうはいつでも武士の世は消えて久しく、そこに開陳された教えが、夫婦や親子、家族の様相がすっかり様変わりした現在でもそのまま通じるのかどうかはなほ疑問です。時間性の限界です。地域性の壁もあります(日本の家庭教育学にも時間的、地域的な一定の制約があることは否定できませんが)。



個別的な「体験」がより普遍的な「経験」となること、それこそ「家庭教育学」の構築が求められる真の原因だといえますが、そこにはまたさらに根本的な要請もあります。

わが国は、奇跡の復興ともよばれる経済発展を遂げ、1968年には当時の西ドイツを抜き、2010年に中国に越されるまで、世界第二位の経済大国であったことは周知のとおりです。反面、日本がたどってきた復興課程は、同時に今日の私たちに未曾有の難題を突きつけています。その一つは、いうまでもなく「家」の問題です。少子化、家庭内の断裂、親殺し子殺しにいたるまで、どれも家族観、家庭観の変貌に起因する諸問題です。「家」の問題をこのまま放置したら、この国に未来はありません。家が社会のもっとも基本的な単位であることに変わりはないからです。勤勉、忠誠、協力、緻密、責任、誠実、・・・、技術立国を支えるこうした精神は、学校教育によってのみ担いうる課題ではありません。ちなみに何を誠実さというのか。個々の「体験」からそれを語るだけでは、多くの人々に納得のいく説明とはならないのです。学問に裏打ちされた「経験」が必要だからです。

今年度に行われた活動についてご報告申し上げます。

## 平成 26 年度 家庭教育支援協会 上半期活動報告

自 平成 26 年 4 月 1 日  
至 平成 26 年 9 月 30 日

年月	日	事業内容	場所
2014	4	総会	八洲学園大学
		研修会(パネルディスカッション) テーマ「家庭教育の今後」 八洲学園大学 中田雅敏、平良直 両教授	八洲学園大学
5	4	家庭教育支援協会後援 第 1 回・2 回 「にっぽり子育てサロン」 木村孝子理事	ホテルラングウッド5階 (日暮里サニーホール)
		家庭教育支援協会後援 第 3 回・4 回 「にっぽり子育てサロン」 木村孝子理事	
6	21 26	家庭教育支援協会後援 第 5 回・6 回 「にっぽり子育てサロン」 木村孝子理事	ホテルラングウッド5階 (日暮里サニーホール)
8	23	家庭教育に関する調査・研究 日本家庭教育学会第 29 回大会 口頭発表 演題「忘却された来歴—ケアの倫理の社会的可能性—」 二川早苗理事長	貞静学園短期大学
		同上 演題「支援者からみた家庭教育のニーズと課題」 和田みゆき副理事長	
9	4 18	家庭教育支援協会後援 第 1 回・第 2 回 「家庭教育きづき塾」 木村孝子理事	ホテルラングウッド5階 (日暮里サニーホール)

★別途、定例理事会、並びに 各委員会会議が、随時行われました。

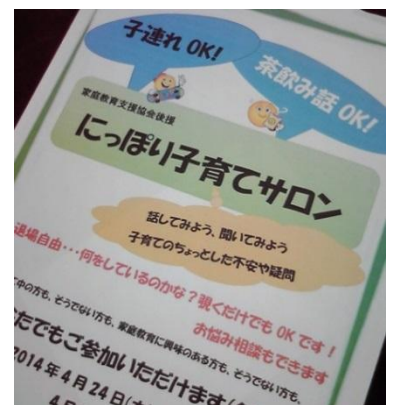
## 活動報告① 「にっぽりカフェ」事業開催報告

木村孝子  
家庭教育支援協会理事

平成 26 年度事業計画に盛り込まれた「にっぽりカフェ」についてご報告します。

「にっぽり子育てサロン」として 4 月 24 日に第 1 回を開催しましたところ、3 名の来場者がいらっしゃいました。事前に開催案内のハガキを送った高校時代の後輩がお友達を連れて来てくれたのです。

2 回目は生憎な雨。来場者がいないまま片付けていると、ベビーカーを押した若いお母さんが「もう終わっちゃったんですか？」と入口に立っていらっしゃいました。家の前に掲示したポスターを目にして訪れた方でした。



少しお話をして分かったことが「子育てサロン」という名称が、荒川区が開催している事業と同じであることと、子どもを連れてきて遊ばせながら母親たちが交流する場としては午前中が好まれることでした。

一方、支援協会の会員である石井登氏が京都から参加され、今後の活動などについて熱く語られたこともありました。

4月から6月まで計6回開催しましたところ、利用者の割合が協会関係者と一般が同じくらいであったことなどを考慮し、名称と事業内容を見直すことにしました。

9月からは名称を「家庭教育きづき塾」とし、事業内容を「家庭教育普及のための広場事業」としました。

家庭教育アドバイザー・家庭教育師の方々はもちろん、広く一般の方々にもご利用いただき、家庭教育についてざっくばらんな話ができる場にしていきたいと考えています。

開催日は木曜日、時間は午後4時30分から2時間です。現在は月2回のペースで開催しています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

なお、開催日は協会のHPでご確認ください。

## 活動報告② ～日本家庭教育学会第29回大会～ 8月23日

8月23日(土)に行われた日本家庭教育学会第29回大会から、本家庭教育支援協会理事の口頭個人発表について内容をご報告申し上げます。

### 口頭発表 演題「忘却された来歴ーケアの倫理の社会的可能性ー」

二川早苗  
家庭教育支援協会理事長  
日本家庭教育学会常任理事



本研究では、ケアの倫理の重要性を説く前に、歴史的に見てケアの営みが女性に担わされてきた状況がなぜ、改善されないのか。そこにはどのような問題があるのかについて明らかにするとともに、ケアの倫理の社会的可能性について考察した。その際、ガルトウングの構造的暴力を導きの糸にフェミニズムとリベラリズムの関係から分析を試みた。フェミニズムによれば、近代の社会構造に潜む構造的暴力は、ケアを家族の内部に困い込み、具体的な他者のニーズに応じる責任を公共化せず、家族内で完結させてきたという。

このことが、ドメスティック・バイオレンスや子どもや高齢者への虐待を増幅してきたというのだ。これは、我々が皆、無力な存在として生まれてくるという主体の来歴を忘れている証左であるとして、キティはリベラリズムの欺瞞を痛烈に批判する。我々は、私的領域の家庭におけるケアの関係性の中で育まれる。つまり、主体の来歴は、私的領域の家庭からはじまる。このことを明らかにしたのが、ケアの倫理である。暴力のない社会、貧困、飢餓、人権抑圧、環境破壊のない社会をケアの倫理に依拠しながら、克服の道筋を講究したい。

## 口頭発表「支援者から見た家庭教育のニーズと課題」

和田みゆき  
家庭教育支援協会副理事  
日本家庭教育学会常任理事



日本家庭教育学会の第29回大会のテーマは、『家庭教育の推進と家庭教育学の構築』。私は「支援者から見た家庭教育のニーズと課題」と題し、日頃行っている活動の実践報告並びにアンケートの集計を基にした口頭発表をさせて頂きました。アンケートの母集団は、20～50代の子育て中の母親244名。その回答から導き出されたニーズは、

①子供の成長と共に家庭教育へのニーズは減少する ②家庭教育支援の成果を感じた人程、関心は高い ③ニーズの多様化  
④支援者には幅広い知識と専門性を求める ⑤母親は解決策ではなく相談相手を求める というもの。

またその課題として、①家庭教育の学びの場が少ない ②家庭教育の専門性を学べる機関の不足 ③家庭教育力の世代間の分断  
④地域・学校・家庭の連携不十分 ⑤IT活用した家庭教育の啓蒙普及

活動の不足を挙げました。

特に⑤のIT活用した家庭教育では、Facebookやブログ等を使った支援事例並びに活用法が好評で、大変嬉しく思いました。この場を借りて素晴らしい機会を頂戴しましたことに感謝申し上げます。

## 今後の活動予定①

### かながわコミュニティカレッジ 連携講座 5回 2014年10月 10:30～12:00

毎回好評の連携講座のご案内です。普段は当たり前すぎて、家庭教育について考える事があまり多くないのではありませんか？こちらの講座では、様々な角度から家庭教育を見つめます。奮ってご参加ください。

★参加費・・・5000円/一括

年月	日	事業内容	場所
2014 10	2 木	タイトル「家庭からはじめるケアの極意」 協会理事長 二川早苗氏	かながわ県民活動サポートセンター 横浜市鶴屋町2-24-12
	9 木	タイトル「子どもの問題行動は子育てを見直すチャンス」 協会理事 木村孝子氏	同上
	16 木	タイトル「家庭教育と香育 ～豊かな心と健やかな体を作る～」 協会理事 松本美佳氏	同上
	23 木	タイトル「子育てを楽しもう」 協会理事 青山利江氏	同上
	30 木	タイトル「家の変遷と家庭教育の変化」 協会理事 平林直人氏	同上

## 今後の活動予定②

### 家庭教育ワークショップ(二部構成) 2014年11月8日 10:00～

ロコモ(「ロコモティブシンドローム」の略)をご存知ですか？

ロコモとは、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)と言い、加齢に伴う筋力の低下や関節や脊椎の病気、骨粗しょう症などにより運動器の機能が衰え、要介護や寝たきりになったり、そのリスクの高い状態を表す言葉です。なんと今や、小学生でもその症状が現れるようになったそうです。

第一部では、このロコモティブシンドロームを予防するための3つの運動方法(「ロコモ体操」)を伝授いたします。

また、第二部では「成長に合わせたほめ方、しかり方とは・・・」をテーマにお伝えします。

そして、第二部終了後には、家庭教育のプロたちがファシリテーターとして皆さまとディスカッションする場を設けます。このチャンスに是非、ご自身の家庭教育について考えてみませんか？

★参加費用は無料です

年月	日	事業内容	場所
2014 11	8	家庭教育ワークショップ 10:30～12:30 「家庭」をしあわせにするワークショップⅡ ～こころとからだをほぐそう～ 第一部 ロコモ体操 講師 木村孝子理事 第二部 ワークショップ 講師 木村孝子理事 「成長に合わせたほめ方、しかり方とは・・・」	ホテルラングウッド 5F 東京都荒川区東日暮里5-50-5

#### <お申込み方法>

[jimu@kateikyouiku.com](mailto:jimu@kateikyouiku.com) 宛てにメールで「ワークショップ参加希望」と明記の上、氏名、年齢、〒、住所、ご同伴者の有無をお知らせください。開催日前日まで受け付けます。定員は30名です。定員になり次第締め切らせていただきます。

#### <お問い合わせ>

03(3805)0604 木村 まで。留守番電話に録音をお願いします。折り返しご連絡申し上げます。

## 今後の活動予定③

### 家庭教育支援協会 公開講座 2015年1月～2月予定

シリーズテーマは、『子育てのためのミラクルアドバイス』。開講場所は、横浜の八洲学園大学です。

10月の「かながわコミュニティカレッジ」の講座内容も再びここでお伝えするため、10月に参加できなかった、という方は是非、この八洲学園大学での公開講座へお出かけください。

#### 受講方法は3つ。

- ①当日、八洲学園大学の会場で直接受講する
- ②当日、自宅でインターネットに繋ぎ、パソコンを通じてリアルタイムで受講する。
- ③後日、オンデマンド配信で受講する。(受講期限有り)

★申し込み方法等の詳細につきましては、後日会員メールにて、お知らせ申し上げます。

## シリーズテーマ『子育てのためのミラクルアドバイス』

当協会所属の5名が、講師として登壇します。  
 研鑽を積み、家庭教育のプロとして各方面で活躍中の講師陣です。  
 どの講座を受講されても、必ず、皆さまにとっての「気づき」があると思います。  
 是非、この機会に今まで当たり前だと思っていた子育てについて、  
 改めて学び直してみませんか？

### ■講師／青山利江 『子育てを楽しもう』

#### 講師プロフィール

日本家庭教育学会認定 家庭教育アドバイザー・家庭教育師。家庭教育支援協会・理事。栃木男女共同参画推進委員。家庭教育支援チームで親学習プログラムのファシリテーターとして活動中。

○受講費 1,000円



日程	時間	内容
1/17 (土)	11:00 ↓ 12:30	働きながら、子育てや、介護をしてきた経験から学んだことや気づいたことがあります。これらの「学び」や「気づき」を皆さまとシェアし、少しでも皆さまのお役に立てていただきたいと思います。また、子育て、介護にまつわる様々な課題は人それぞれです。そうした課題のより良い解決策を、皆さまと一緒に考えてみませんか？

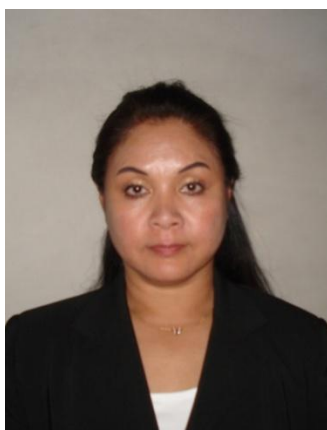
### ■講師／木村孝子 『子どもの問題行動は子育てを見直すチャンス』

#### 講師プロフィール

1956年東京生まれ。東京女子体育大学を卒業後、高校教師、フィットネススタジオ経営、専門学校講師等を経て、2010年に家庭教育師・家庭教育アドバイザー資格を取得。

現在、中高年の健康体操指導を職業としながら、自らの経験を基に、思春期の子どもと親の関係について考察、「育て直し」の実践に取り組んでいる。

○受講費 1,000円／各回



日程	時間	内容
1/24 (土)	13:00 ↓ 14:30	子どもの問題行動は親へのSOS、「育て直し」の要求といわれます。高校1年で部活をドロップアウトした息子に誤った対応を続け、やがて不登校・ひきこもりにしてしまいました。つまづいてしまった子どもへの親の対応についてお伝えします。
2/7 (土)	13:00 ↓ 14:30	親自身が知らず知らずのうちにってしまう不適切な養育について理解を深め、傷ついた子どもの心を丸ごと受け止めるための考え方、そして「育て直し」を実践する方法について、自身の経験を交えながらお伝えしていきます。

## ■講師／二川早苗 『家庭からはじめるケアの極意』

### 講師プロフィール

家庭教育支援協会理事長。日本家庭教育学会常任理事。家庭教育アドバイザー。家庭教育師。筑波大学大学院博士課程在籍。元世田谷区立小学校 PTA 連合協議会会長、世田谷区社会教育委員、世田谷区個人情報保護委員、世田谷区立小学校外部評価委員、世田谷区スポーツ振興審議会委員等を歴任。大学卒業後、アナウンサー、ニュースキャスター、学習塾経営を経て、大田区、世田谷区、都研修センター、相模原市教育委員会等で家庭教育に関する講演会多数。筑波大学大学院教育学修士号取得、現在筑波大学大学院人文社会科学博士課程にて研究中。主な研究領域はケアの倫理。家庭教育。

○受講費 1,000 円／回



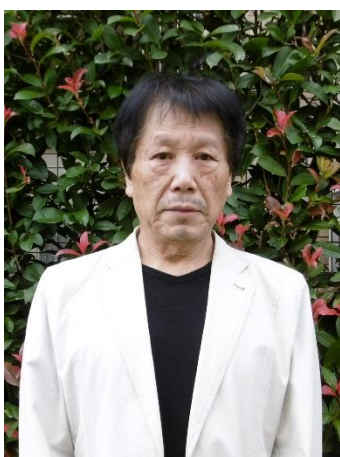
日程	時間	内容
1/24 (土)	10:30 ↓ 12:00	『ケアってなあに』 なにげない一言に傷ついてしまったり、傷つけるつもりなどなかったのに、それっきり気まづくなってしまった人はいないでしょうか。ケアすることの意味を身近な例から考えます。
1/25 (日)	10:30 ↓ 12:00	『家庭におけるケアの極意』 ケアは家庭からはじまります。ところが現実には子どもや高齢者への虐待やDVが起きています。家族の歴史的経緯を理解した上で、実際に自分でできるケアについて学びます。

## ■講師／石井 登 『子どもの健全な自立を目指して』

### 講師プロフィール

8ページの会員紹介を参照して下さい。

○受講費 1,000 円／各回



日程	時間	内容
1/26 (月)	13:00 ↓ 14:30	「社会環境の変化と、求められる価値観」 求められる人材像と学歴、学びなどの価値観の変化などをお伝えします。
2/2 (月)	13:00 ↓ 14:30	「子どもの成長と脳の働き」 脳機能の発達に沿った教育を考えます。
2/9 (月)	13:00 ↓ 14:30	「問われる家庭の教育力」 普遍的な価値観と多様な価値観。必要とされる能力は高次脳機能がキーワード。児童期から思春期の対応や親の問題点などを話し合います。

## ■講師／平林直人 『家の変遷と家庭教育の変化』

### 講師プロフィール

八洲学園大学事務職を経て、横浜創英大学で事務職として勤務。家庭教育学会常任理事。家庭教育支援協会 副理事長。ボーイスカウトや、地域活動での自然体験を通し、家族像、父親像など家庭の在り方について親子に向け伝授している。

○受講費 1,000 円／各回



日程	時間	内容
2/14 (土)	10:30 ↓ 12:00	家庭とは何か。180 万年前に、人間がサルから分かれたとき、育てるのに時間がかかる子供のため、男が食べ物を、女が子育てをするという分業制を引き、人は家庭を作りました。
2/15 (日)	10:30 ↓ 12:00	1 万年前の農耕の時代に家庭の主役は子供から財産に移りました。そして、今IT革命により、家庭の形が変わろうとしています。そんな家庭の変化を捉えて、これからのあるべき家庭教育を考察します。

## 自己紹介

今回は、来年の八洲学園大学公開講座の講師としても初登壇なさる、京都府在住の石井登さんです。

41 年前、当時のパートナー(現在の妻)と設立した A.C.S.学院は私のライフワークと言えます。米国留学から帰国した妻の発案で、当時では珍しい“親と子どものカウンセリング”を中心に据え、学習意欲を高めることを目指しました。

対象は小 5 から高 3 です。子どもに起きた多くの様々な問題の根底には、いつも親や学校などの学歴至上主義が垣間見えていました。

そんな時、いつも「どの道、今後の人生のほとんどを仕事や家庭に費やすことになるのだから、もう少し時間をかけて考えるほうが良いだろう。でなければ、自分が出来ることや自分の好きなことさえもよく分からないままになることもあるのに」と思っていました。

私は、少ないパイを不特定多数で取り合うような競争は好きではありません。

競争の結果は、意味なく、少数の勝者と多数の敗者が生まれるだけです。進学を数少ない「人生の勝利」獲得の競争であるかのようにとらえる受験教育に、何の合理性も見いだせないからです。

競争で教育の質が向上するかのような風潮が強まっているように思える近年、十数年前に開催された京大経済研究所のシンポジウムでの表題『学力を伸ばす“be nice”“keep rule”“be honest”“keep learning”』の意味がよく解かるようになりました。やはり「教育は家庭から」ですね。



### 情報募集中！ 宛て先はこちら……jimu@kateikyoku.com

皆さまがお住まいの地域で、家庭教育に関する講演やイベントなどがありましたら、お知らせ下さい。  
会員の皆さまと情報を共有し、交流を図りましょう！

**編集後記** この夏は猛暑のほか、豪雨や土砂崩れなどの自然災害に見舞われ、全国では大変な思いをされた方も多かったと思います。被災された方々の「共助」の姿をニュースで拝見するたびに、日頃のご近所付き合いの大切さを痛感しました。この四月に大学へ入学した娘は、果たしてご近所様とお付き合いできているのだろうか、と心配していましたが、帰省を終えて発つ時、「両隣りと大家さんへのご挨拶用のお土産が一杯で、肝心の荷物が入らない」と漏らしました。ひと安心の母でした。

(広報委員長 八木由紀)